

R8.2.17 小林周平(北海道消費者協会)委員

メラミン樹脂食器に関する業界団体の資料及び毒性学的な視点を踏まえて説明

メラミンについて

- ・2009 年～2011年に健康被害の報道による印象が残っている。
- ・当時問題になったのはメラミンモノマーであり、メラミン樹脂とは別物。
- ・モノマーは低分子で比較的水に溶けやすく、体内に取り込まれた場合すぐ吸収される性質を持っている。
- ・メラミン樹脂はメラミンモノマーが結びついてできた大きな材料といわれるもので、水に溶けにくい性質を持っている。
- ・メラミン樹脂の化学構造上、ホルムアルデヒドという物質が存在しているが、食品衛生法の規格に基づいた溶出基準により、厳格な管理対象となっている。

PEN 樹脂製食器について

- ・化学構造上、ホルムアルデヒドは含まれていない。
- ・個別規格も定められており、遺伝特性や発がん性に対する評価も食品安全委員会から公表されている資料を見る限り、現時点で特段の健康影響性は懸念されていない。
- ・製造方法における触媒についても製品中の残存量が国の規格に基づいて管理されている。
- ・毒性試験の結果をみても、通常の使用において直ちに健康影響性を示すものではない。

学校給食における安全管理で重要なこと

- ・劣化した際の挙動がある程度予測可能か。
- ・反復使用が前提のため、科学的な安定、分解経路が単純で予測可能な材質であることが将来的なリスク管理の観点から望ましい。